



新春座談会

新年明けましておめでとうございます。今年は農業各団体で指導的立場の皆さまにご出席いただき、基幹産業である町の農業を語っていただきました。ご出席は、板谷重徳東川町農協組合長、高橋昭典大雪東川地区国営緊急農地再編整備事業促進期成会長、林次男東和土地改良区理事長、宮崎正志東川町農業委員会々長（五十音順）。米作りを中心に、これから進める土地基盤整備への展望、これからの東川農業などを伺いました。（司会進行は、町長・松岡市郎）

松岡 高橋さんには農地整備の期成会々長、そして農業者の立場から。林さんには水と土地を守る土地基盤整備の団体理事長という立場から。宮崎会長には、整備後の土地の利用、さらに後継者、配偶者の問題などを協議する農業委員会、また農業者として。板谷組合長には総合的に農家を引っ張っていく視点からお話を伺いたいと思っています。今年（1895（明治28）年）に開拓の鉞が入って119年目、稲作は117年目に当たり、続く翌年は開拓120年目という年になります。昨年は明るい話題が多かった年でした。国営緊急農地再編事業の地区採択、また東川米が地域団体商標登録になりました。何年か続いて豊作にもなりました。みなさんのご記憶に残っているお話からお聞かせください。



司会進行/町長 松岡市郎

高橋 共済の作況指数は、109%の「良」になると思います。過去の生産量と比較すると3番目の豊作で、米価の点からみると、販売努力もあって一昨年を上回る所得の増大になっています。経済的な面でいうと大変望ましい状況が続いている。

宮崎 最近農業後継者が帰ってきています。農協青年部も50人を超えました。若い人が戻ってくるというのは魅力があるということだと思っています。昨年11月の農業委員会の幹旋状況によると、規模を拡大したい、という申し出が45人。面積に換算すると211・5ヘクタール希望が出ています。45人のうち後継者がいる家は27人、後継者の平均年齢は29歳と非常に若くなっています。

板谷 去年の地域団体商標では、組合員さん一人ひとりの努力で評価が高まっていることが認められたということで、今年からこれを維持、向上させて目標に向かって努力することが大事なことじゃないかな、と。

一方、農地を売買希望する方は11人、貸し付けを希望する方は15人と、土地の異動申し出が26人います。高齢者の方々は借りている土地を戻すとか、または後継者がいなくて、あと2、3年やろうかと思っていた方が見切りをつける、ということではないかと思っています。このような傾向が続くと思いますが、幸いに後継者に意欲があり、土地が出ても余すことななく処理できているのはうれしいことです。

林 東和土地改良区としては8千200町（1町は1畝、以下同）ほどあり、そのうち東川は3千町、作っている面積は2千300町くらいです。平成15年当時まとめた水田農業ビジョンの中で2千500町を目指そう、という目標を立て、それ以来年々耕作面積も増えてきています。東川米が地域団体商標をとることができたというのもそういう



理解と意欲の表れだと思っています。後継者が戻っているということにつながっていると思っています。私たちはこの緊急再編事業を第三の開拓として掲げているんですけど、何とか早く実現するようにしたいと考えています。

松岡 未来に向かって東川農業が持続し、活力もあって、ということを考えると、人、後継者